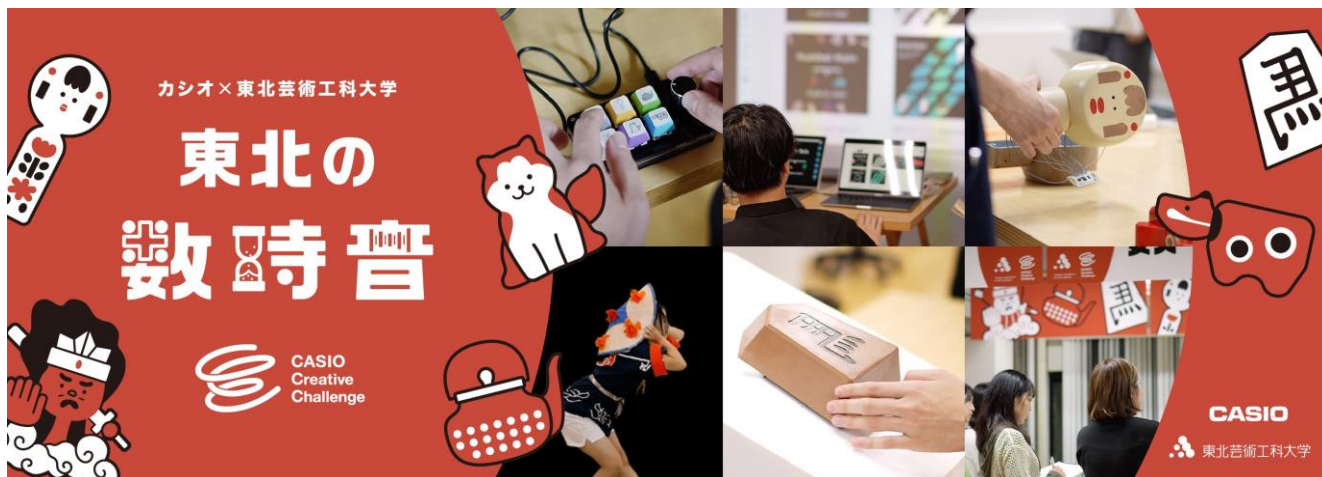


教員 8 名と学生 18 名による「3 学科合同プロジェクトチーム」がカシオ計算機と協働し、
『東北の数・時・音』を表現したアートの展示を 10/25(金)から開催！



東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長：中山ダイスケ）とカシオ計算機株式会社（東京都渋谷区／以下、カシオ）は、『東北の数・時・音』と題したインスタレーションアートの展示イベントを、10月25日（金）～29日（火）の期間、東北の情報発信拠点「CROSS B PLUS（宮城県仙台市）」において入場無料で開催します。

カシオは、「創造 貢献」という経営理念の下、人々の役に立つ新しい価値の創造を事業活動で実践しています。また、事業以外でも社会に貢献できる価値創造を目的に次世代を担う若手クリエイターの育成を支援しており、今年から新たな時代の表現や思考の可能性を探究するプログラム「CASIO Creative Challenge」を開始しました。

今回は、その第1弾として、本学がカシオと協働し、本イベントを開催することとなりました。

今回のイベント『東北の数・時・音』では、デザイン工学部の3学科（プロダクトデザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科）の教員8名と学生18名が携わり、カシオとコンセプトワークやディスカッションを重ねてきた成果を展示します。

作品は、カシオが事業で追求してきた「数・時・音」という普遍的な価値と、本学が探究してきた地域の豊かな文化や風土をテーマに、学生たちがアートとテクノロジーを融合させて新しい表現を創作したインスタレーションアートです。

来場者は、東北6県をイメージしたキャラクターを天秤に当てて「数」のバランスを取るゲームで楽しんだり、山形の花笠音頭の映像を独自に編集したビジュアル表現で「時」を体験したり、地域の特産品などに触れて「音」を奏でるユニークな楽器で演奏したり、作品を目で見て耳で聴き、触れて遊びながら、地域の多様な文化と生活に不可欠な「数・時・音」を感じることができます。

本学とカシオは、今後も若手クリエイターの育成を通じて、社会や人々の役に立つ新たなアイデア・表現・技術の創造に挑戦していきます。

今回は、本イベントでしか見るることのできない様々な展示がありますので、本件を多くの市民、県民の方にお知らせしたく、取材・広報のお願いを申し上げます。

■イベント概要

名 称：『東北の数・時・音』

開催日時：2024年10月25日（金）～29日（火）

10月25日（金）17:00～22:00 ※初日15:00～17:00は招待者のみ入場可

10月26日（土）11:30～22:00

10月27日（日）11:30～19:00

10月28日（月）11:30～22:00

10月29日（火）11:30～18:00

開催会場：東北の情報発信事業の拠点施設「CROSS B PLUS」

宮城県仙台市青葉区大町1丁目1-30 新仙台ビルディング1階

入 場：入場無料

主 催：カシオ計算機株式会社、学校法人東北芸術工科大学

■東北芸術工科大学 デザイン工学部 3学科合同プロジェクトについて

デザイン工学部のプロダクトデザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科の3学科合同プロジェクトで、担当教員8名と学生18名で構成。

2024年4月から始動し、調査、検討を重ねた後、「数」「時」「音」の3グループで作品制作に当たる。

担当教員：酒井聡 デザイン工学部長（プロダクトデザイン学科教授）

プロダクトデザイン学科…小林隆幸 教授、堀内芳明 准教授

グラフィックデザイン学科…田中康博 学科長（教授）、萩原尚季 准教授、本間拓真 専任講師

映像学科…岩井天志 教授、工藤薫 准教授

参加学生：プロダクトデザイン学科…3年生 6名

グラフィックデザイン学科…3年生 6名

映像学科…3年生 6名

■カシオ計算機株式会社について

1957年6月設立。世界初の小型純電気式計算機をはじめ、世界初のオートカレンダーを搭載した腕時計、さまざまな楽器の音色で演奏できる電子楽器を開発し、「数・時・音」を追求する事業を展開してきた。現在は、“G-SHOCK”を主力とした時計事業、関数電卓やアプリケーションで教育を支援するEdTech事業、楽器で生活をより豊かにするサウンド事業のほか、HRソリューションやメディカル事業などに取り組み、社会や人々の役に立つ新たな価値の創造を追求している。

配信元：東北芸術工科大学 法人企画広報課 TEL:023-627-2246

MAIL:public@aga.tuad.ac.jp